

教育目標	地域と協働し、人としてたくましく生き抜く誇り高さ「あだっこ」を育てる。 ～ やさしく・かしく・たくましく ～				総合評価	
運営方針	地域や家庭と協働しながら、自ら課題をもち、自ら考え、判断し、自ら解決・創造する活動を通して、自主性や主体性、自尊感情等を育み、人として自立・自律できる児童を育てる。					
28年度の成果と課題	本年度の重点目標		具体的目標			
<p>【成果】</p> <p>○自尊感情や自主性の高まりを促すために、教育活動全体を通じた活動を計画的に実行し一定の成果を上げることができた。</p> <p>○毎月の人権の話を計画的に行い、それに合わせて励ましやすいところを探し取組も行ったので、テーマについて考える機会となった。</p> <p>○気持ちのよい挨拶を常に意識して子どもたちと共に考え実行してきた。今後も自分から挨拶しようとする態度を育てていく。</p> <p>○授業チェックシートを活用した自主公開授業を実施し、互いに学び合った。</p> <p>○全校外遊びの機会を多く設けることで、業間以外で遊ぶ時間が増えた。</p> <p>○生活チェックカードにより、自らの生活を振り返るきっかけとなった。</p> <p>○地域の人とふれあう学習の機会を設けたことにより、子どもは地域のことについて知る機会が増え、地域の人は、学校のことについて知る機会となった。今後は、その取組を一層推進し、地域との協働を深めていく。</p> <p>○ブログや学校通信などをこまめに出すことで、学校を知ってもらう機会を多く持った。</p> <p>【課題】</p> <p>●道徳の研修や研究授業を行い授業についてはわかるようになったが、日々の生活に生かせるような取組を目指していきたい。</p> <p>●子どもが受け身の授業構成がまだまだ多いので、子どもたちが主体的に学習できるように研修や自主公開授業を通して、よりよい問題解決型の授業を更に構築していく。</p> <p>●スポーツテストの結果から実態を把握し、全校で体力の向上を図ったが、あまり変化が見られないことから子どもたちの体力が弱いところは何が原因なのか分析し、体育の授業や休み時間に体を動かしたくなるしなやかさを考えていく。</p> <p>●読書活動は、いろいろ工夫して行ってきた。今後、保護者も同じ時間に読書する動きかけや子どもの読書の傾向など分析しながら読書の推進に努めたい。</p> <p>●命や安全に対する意識向上を大切にしながら、学校、地域、保護者と協働した取組を行いより一層の「開かれた学校」を目指す。</p>	<p>(豊かな心)</p> <p>・日々の道徳教育や「道徳の時間」の充実、人権教育の推進を図り、自分も人も大切にしながら人としてよりよく生きようとする児童を育てる。</p>	<p>○気持ちのよいあいさつを自分から進んで行う習慣を付ける。</p>			A	
	<p>(確かな学力)</p> <p>・基礎学力の定着、学び合う力の強化を図りながら、意欲的・主体的に学習に取り組む児童を育てる。</p>	<p>○繰り返し学習することや日常生活と関連付けて考えることで、「分かる楽しさ」「できる喜び」を味わわせ、学習内容の確実な定着を図る。</p>	<p>○児童一人一人の心に響く日々の道徳教育を核にした取組を推進し、自立・自律の心や態度を育成する。</p>			
	<p>(健やかな体)</p> <p>・基本的生活習慣の定着を図るとともに、体力向上を目指して運動に積極的に親しもうとする児童を育てる。</p>	<p>○繰り返し学習することや日常生活と関連付けて考えることで、「分かる楽しさ」「できる喜び」を味わわせ、学習内容の確実な定着を図る。</p>	<p>○問題解決的な学習を通して、自ら考え解決したり、なかまと共に学び合ったりする力を高める。</p>			
	<p>(地域・家庭(ふるさと))</p> <p>・学校と地域の連携・協働を進めながら、ふるさとを愛し、ふるさとに誇りをもって、意欲的・主体的に地域に貢献しようとする児童を育てる。</p>	<p>○繰り返し学習することや日常生活と関連付けて考えることで、「分かる楽しさ」「できる喜び」を味わわせ、学習内容の確実な定着を図る。</p>	<p>○学校生活や家庭生活の様々な場面で「言語活動」を意識した取組を推進し、思考力・判断力・表現力等を育成する。</p>			
	<p>(健やかな体)</p> <p>・基本的生活習慣の定着を図るとともに、体力向上を目指して運動に積極的に親しもうとする児童を育てる。</p>	<p>○繰り返し学習することや日常生活と関連付けて考えることで、「分かる楽しさ」「できる喜び」を味わわせ、学習内容の確実な定着を図る。</p>	<p>○基本的な生活習慣の見直し・点検を通して、自分の健康や安全について自ら改善していこうとする意欲と実践力を育てる。</p>			
	<p>(地域・家庭(ふるさと))</p> <p>・学校と地域の連携・協働を進めながら、ふるさとを愛し、ふるさとに誇りをもって、意欲的・主体的に地域に貢献しようとする児童を育てる。</p>	<p>○繰り返し学習することや日常生活と関連付けて考えることで、「分かる楽しさ」「できる喜び」を味わわせ、学習内容の確実な定着を図る。</p>	<p>○運動に積極的に取り組み、運動する楽しさを味わわせるとともに、自分の体力を少しでも高めようとする意欲を育てる。</p>			
	<p>(地域・家庭(ふるさと))</p> <p>・学校と地域の連携・協働を進めながら、ふるさとを愛し、ふるさとに誇りをもって、意欲的・主体的に地域に貢献しようとする児童を育てる。</p>	<p>○繰り返し学習することや日常生活と関連付けて考えることで、「分かる楽しさ」「できる喜び」を味わわせ、学習内容の確実な定着を図る。</p>	<p>○ふるさとをよくするために自分たちができることは何かを考え、意欲的・主体的に地域に貢献しようとする心や態度を育てる。</p>			
	<p>(地域・家庭(ふるさと))</p> <p>・学校と地域の連携・協働を進めながら、ふるさとを愛し、ふるさとに誇りをもって、意欲的・主体的に地域に貢献しようとする児童を育てる。</p>	<p>○繰り返し学習することや日常生活と関連付けて考えることで、「分かる楽しさ」「できる喜び」を味わわせ、学習内容の確実な定着を図る。</p>	<p>○様々な手段を通して、地域への情報発信や地域との情報交流に努め、地域との絆を深める。</p>			

評価項目	具体的目標(評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果				成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
			教員	児童	保護者	総評			
豊かな心	気持ちのよいあいさつを自分から進んで行う習慣を付ける。	・五條中学校と連携し、地域の中で自ら進んで挨拶が出来る児童を育てる。そのために下校会や生活部の話を中心に、意識を高められるよう啓発する。	A			A	・挨拶に関しては、今年度の取組を継続しつつ、さらなる挨拶の質の向上を目指す。そして、「気持ちのよいあいさつ」が阿太小学校の校風・伝統となるようにしていく。	・挨拶に関しては、今年度の取組を継続しつつ、さらなる挨拶の質の向上を目指す。そして、「気持ちのよいあいさつ」が阿太小学校の校風・伝統となるようにしていく。	○学校のあいさつ取組が子どもたちに浸透してきている。さらに挨拶だけでなく、一言添えて話しかけることができる児童も増え、すがすがしい気持ちになる。
		・"時を守り、"場を清め、"礼を正す"を基本とした指導を学級において日常的に行い、規範意識を高める。	A			A	・5分前行動を心がける児童の姿が多くなった。学級においては、チャイムスタートを徹底し、児童自身も意識して時間を守るようになってきている。清掃指導では、全体に呼びかける機会を設けた。児童の心や態度が振る舞いについては、個人差があり、今後更に指導していく必要がある。	・規範意識の向上については、適に応じた態度や振る舞いができるよう、学級や全体の場で指導を行う。	○子どもたちは喜んで学校に通っている。恵まれた環境に受け身だった子どもが積極的になってきた。
	児童一人一人の心に響く日々の道徳教育を核にした取組を推進し、自立・自律の心や態度を育成する。	・児童が日常生活と重ね合わせて考えることができ、更に友だちとの意見交流を通して、互いに考えを深め合えることができる道徳の授業を行う。	A			A	・日常生活と結びつく資料等を提示・学習することにより、道徳的価値を理解し、道徳の実践力の育成につながっている。	・今後も継続して道徳の授業を大切に実践していきたい。そして、更に児童が道徳の生活の中でその学びを活かしているように道徳の時間と生徒指導の両面からアプローチを行っていく。	○学校での様々な取組などについて、子どもから家で話をするようになり、会話が増えた。
		・全学年で研究授業を実施し、全教員で振り返り、児童の心に響く授業が創造できるようにする。	A			A	・学年部会での授業研究の中で、基本的な事柄から教材の良しや弊弱の方法など、内容に関わる事柄まで議論し、指導方法を決めることができた。また、研究授業後は全員で研究討議を行い、講師先生の助言を受けることで、今後の道徳授業につなげることができた。	・全教員が校内放送等を活用し、あったかのカードを全校児童に紹介する。また、各教室に「自立・自律」の定着とその児童の姿を掲示し、いつでも自主的に書ける環境を整える。	○自立・自律といったセルフコントロールに関する評価指標が弱いのではないかと、また、どのように評価しているのか。→自立・自律に明確につながる評価指標とは言い切れないが、自尊感情測定尺・主体性測定尺等、QIU心理検査等を毎授業実施し、その結果や変化を捉え一連のエビデンスとしている。★更新の評価指標を検討とともに、本校が考える「自立・自律」の定着とその児童の姿を明確にし、筆跡のデータだけでなく、質的なデータも合わせて評価していく必要がある。
確かな学力	繰り返し学習することや日常生活と関連付けて考えることで、「分かる楽しさ」「できる喜び」を味わわせ、学習内容の確実な定着を図る。	・ICT機器等を効果的に活用し、「分かる授業」「楽しい授業づくり」を行う。	A			A	・ICT機器の活用を継続して取組を進めてきたことで、教員のICT活用能力が向上した。そのことにより、授業では、ごく自然にICTを取り入れた学習が展開され、児童の学習意欲を高めることにつながっている。	・ICTの活用を今後も継続し、自主研修を行うことで、更に効果的な活用方法を身に付けていく。	
		・毎朝5分のボール及び、毎週水曜日1時間の基礎学習を通して、算数科・国語科の基礎基本の徹底を図る。その際、児童一人一人のよさや可能性を認め、ほめ、励まし、伸ばす指導を心掛ける。	B			A	・基礎学習の時間を十分に取ることで、個別指導をはじめ、児童の個性強化に取り組んだ。しかし、各学年の基礎習得の状況が異なり、授業や課題について考察したりすることにおいては課題があった。	・教員同士で定期的な学習内容や児童の実態等の交流を図る機会を設けるなど日常的に改善が図られる仕組みを構築する。	○少人数になり学力傾向を把握することなど難しくなってきたのではないかと、また、個別の対応方法等についてはどのように考えているのか。→学年に関する成果や課題については、全学年で診断テストと併し、市の学力テスト、単元ごとのテスト等から総合的に判断し、本校の傾向を捉え、教員員の全体研修で周知している。しかし、少人数のため個々の学力によることも大きい。その点に関しては、少人数であることを最大限に活かして、基礎学習の時間を中心に個別指導を徹底している。
	問題解決的な学習を通して、自ら考え解決したり、なかまと共に学び合ったりする力を高める。	・全学年自主公開授業を行い、研究協議を行う。授業「ラジカル」を軸として、個人の考えが生かされる主体的・協働的で深い学びが展開される授業作りを進める。	C			B	・今年度、道徳科を授業研究の中心に据え、全学年での公開授業を実施した。資料における自主公開授業は3学期になってしまった。	・1・2学期前半の早い段階で自主公開授業を実施できるように年間の計画を改善する必要がある。早い時期に教員間において授業の交流を進めることで、授業改善が図られることと、各教科・領域・行事等のコラボレーションも形成も図る。	
		・学年に応じた自主学習(予復習)を行い、それを起点にめあてや見通しをもつことにより、意欲的に取り組める授業作りを進める。	A			A	・予習を始めた学年ができるよう、各学年の実態に応じ、自主学習に取り組む。高学年では、家庭学習として予習することにより、めあてや見通しを持って授業にむかえる姿が少しずつ見られるようになってきた。中学年では、自主学習の習慣が身についた。低学年では予習「単語や数算等」を行い、授業でプリント学習などを行うことで、基礎基本の定着を図ることができた。	・自主学習(予習・復習)を更に系統立てて、継続・実施していく。そして、児童の学力向上につながることを目指す。	
学校生活や家庭生活の様々な場面で、「言語活動」を意識した取組を推進し、思考力・判断力・表現力等を育成する。	・各学年が企画運営する「O'」型学習を進め、言語活動を通して考えさせながら準備し、個々に役割を担わせて運営する中で表現力を身に付けさせる。	A			A	・高学年は運動会、中学年は種別、低学年は道徳祭集会などの行事を中心として、プロジェクト型学習を展開した。その結果、子どもたちの創造力・思考力・表現力等を伸ばし、その後の学習意欲の向上につなげることができた。	・各プロジェクトがそれぞれ単発で終わることなく、学年の垣根を越え、縦断的かつ横断的につながるものをもって取り組むことで、更に学びが深くなる。各教科・領域・行事等のコラボレーションもプロジェクトを適切に行い、計画・運営していく。	○英語の取組はどのようにされているのか。→一五條市は早期からALTが来校し外国語活動に取り組んできた。教科化に向けてもあきらみ配りすることなく進められると考えている。	
	・学校や家庭において毎日、読書や新聞を読む習慣をつけさせる。	A			B	・学校では時間があれば読書(高学年は新聞も含む)をするという習慣はできている。しかし、一冊の本を最後まで読み切ることや読書の習慣までは至っていない。	・読書等を工夫し、更に読書の時間を確保する。そして、週1冊以上の読書を目指す。また、週末の家庭学習で読書感想文に取り組み、読書のインポートとアウトポートを図る。		
	・読書紹介や国語科の並行読書を通して言語能力を高める。	B			B	・各学年の学習に関する書籍・図鑑等を教室に展示することで、興味を持ち、自ら手に取る児童が増えた。	・各教科と国語科の結びつきを更に強め、読書紹介や活用資料の発表等を活用していく。		
健やかな体	基本的な生活習慣の見直し・点検を通して、自分の健康や安全について自ら改善していこうとする意欲と実践力を育てる。	・日々の健康観察を通し、自分の心身の状態を把握し、健康的な生活が送れるよう自己管理能力を高める。	A			A	・児童は、係活動の一環として健康観察カードを毎日記入することが定着しており、自分の身体の状態を把握できるようになってきた。しかし、体調の自己管理を高めることには至っていない。	・引き続き「あだっこ元気もりもりカード」を実施し、児童の実態把握に努める。また、保護者への要する啓発のために、学級懇話会等を利用して、基本的な生活習慣に関する児童の実態や課題、改善方法等について話し合う機会を設け、保護者の意識の向上につなげる。	○夏期水泳クラブや駅伝クラブはよく取り組まれている。子どもも「しんどい」と言いつつ一生懸命に頑張っている。
		・保護者と連携し「あだっこ元気もりもりカード」(早寝早起・朝ごはんを基本とした生活)を学期に1度実施し基本的な生活習慣の定着を図る。	A			A	・あだっこ元気もりもりカードを実施することで、本校の課題が解決し、一部の児童は生活習慣を改善しようとする取組が広がった。全体まで波及することはできなかった。	・運動の時間(ハズレタイム)や運動内容等が体力・運動能力の向上の結果向上につながるよう改善を図る。(毎日短時間でも継続的に行う運動内容を検討する)	
	運動に積極的に取り組み、運動する楽しさを味わわせるとともに、自分の体力を少しでも高めようとする意欲を育てる。	・体力テストの結果から、児童の課題に応じた外遊びや簡単な運動を月3度全校朝会時や昼休みに実施(ハルマヒ)し課題克服を図る。	A			A	・様々な課題に取り組むことにより、運動に対する興味・関心が育まれた。しかし、体力向上に関する数値的な結果の上昇には至らなかった。	・各活動を通して、児童の健全な心身の成長を見ることができた。今後も阿太小学校の優良伝統として続けていきたい。保護者からの期待も大きい。	
		・自己目標の達成・向上に向けて、夏期水泳クラブ、冬期駅伝クラブ(中・高学年)、あだっこAC(低学年)を開校する。活動を通して、体力向上・ねばり強くやりぬく心を育む。	A			A	・教員の学習・学校行事・環境整備では、地域の協力を得ながら、ふるさとの魅力の文化や人文化など、学習することができた。	・共に行う活動を充実させるとともに、地域へ貢献する活動を充実する。	
ふるさとをよくするために自分たちができることは何かを考え意欲的・主体的に地域に貢献しようとする心や態度を育てる。	・地域の協力を得る活動・共に行う活動・貢献活動を推進する。	A			A	・生活科・総合的な学習の時間等で問題解決の学習を通して目的を設定し、主体的に課題解決しながらまとめ共有することができた。地域の大人や児童の絆を深めることができた。	・左記の教科だけでなく他教科の学習活動でも地域の協力を得ながら「ふるさと」の魅力を学び、ふるさとを誇りながら地域に貢献しようとする心や態度を育てる取組を充実する。		
	・各学年に応じた「ふるさと魅力化」型活動を推進し、その成果を保護者や地域に発信する。	A			A	・生活科・総合的な学習の時間等で問題解決の学習を通して目的を設定し、主体的に課題解決しながらまとめ共有することができた。地域の大人や児童の絆を深めることができた。	・左記の教科だけでなく他教科の学習活動でも地域の協力を得ながら「ふるさと」の魅力を学び、ふるさとを誇りながら地域に貢献しようとする心や態度を育てる取組を充実する。		
	・学校通信・ボランティアの募集・防災通信など、地域への情報発信に努め理解を得るようにする。	A			A	・学校通信・ボランティアの募集・防災通信など、地域への情報発信に努めることができた。	・更に地域の方と学校が協働し、人としてたくましく生き抜く児童を育成するために、共に取り組むことが必要ではないかと。	○自治会を通して、学校通信「あだっこ」を地域に発信していただいていることで、学校や児童の様子やわかり、うれしい。特に、小さい子どもがいなくてもいい家庭にとってはありがたい。更に掲載内容等の充実を願う。	
様々な手段を通して、地域への情報発信や地域との情報交流に努め、地域との絆を深める。	・学校通信・ボランティアの募集・防災通信など、地域への情報発信に努め理解を得るようにする。	A			A	・学校通信・ボランティアの募集・防災通信など、地域への情報発信に努めることができた。	・更に地域の方と学校が協働し、人としてたくましく生き抜く児童を育成するために、共に取り組むことが必要ではないかと。		
	・地域と学校が双方向の情報交流できるように工夫する。	B			B	・学校から地域の実情を踏まえながら情報発信に取り組んだ。しかし、双方向の情報交流することには課題がある。	・地域の自治会と連携しながら情報収集する。地域から学校への期待が大きくなることを意識しなければならぬ。		

※ 教員アンケート・児童アンケート・保護者アンケートをそれぞれ4件法で実施。
85%~100%をA 70%~84%をB 60%~69%をC 59%以下をDとした。